葉山町議会議長　土佐洋子様

御用邸の臨御橋の架け替え工事を鉄の橋にするのではなく、葉山町の御用邸にふさわしい木の橋による素晴らしい臨御橋にすることの陳情書

臨御橋は、葉山御用邸の下山川に架けられた一色海岸と葉山公園を結ぶ全長33メートル幅4メートルの橋です。赤橋と呼ばれて50年経ちましたが、老朽化のために「臨御橋架け替えプロジェクト」を立ち上げて2億4000万円の寄附が集まり、現在架け替えのための事前協議が行われています。

葉山町は、臨御橋の架け替え工事を鉄の橋にして作るように進めています。しかし鉄の橋にすると、海の近くに架ける橋のために塩害によって錆びて腐食が進んでいきます。木の橋にする事によって、日本各地の名前の通った木の橋のように、クスノキやヒノキやヒバなどの腐食に強い木を使って定期的な塗装費を計上しておくことによって、美しく長持ちする臨御橋にすることが出来ます。

鉄の橋は強度がありますが、木の橋にした場合でも腕と技術のある大工職人によって強度が得られるのであり、長く通ることの出来る臨御橋にする事が出来ます。鉄の橋はデザインが限られますが、木の橋にすることによって暖かみが得られ、御用邸にふさわしいデザインの臨御橋にすることが出来ます。

山梨町長は、地震が起きれば津波によって木の橋は流されるが鉄の橋は流されないから鉄にすると言っていますが、津波で橋が流されるのは沢山の流木が流されて来て橋によって堰き止められ、その圧力に耐え切れなくなって橋が流されるのであり、鉄にしても木にしてもその点では変わりはありません。

臨御橋の架け替え工事は寄付で行われており、葉山町の財政によって行われてはいませんが、葉山町の象徴である御用邸と一体となった素晴らしい臨御橋にする事によって、葉山町政100周年にふさわしい臨御橋の架け替え事業にすることが出来、葉山町の新しい名所になる臨御橋にする事が出来ます。

葉山町は鉄にすればわずらわしくないために鉄にしようとしていますが、これからの葉山町を良くしていこうとする姿勢がないのであり、葉山町の将来を考えて寄附をしてくれた人々の気持ちを踏みにじることであり、葉山町が独断で鉄の橋を決めて進める事は良くありません。

葉山町は、葉山町の象徴としての御用邸にふさわしい臨御橋を作るため、日本各地の木の橋を調査し、専門家の意見を聞き、木の橋を作る技術のある職人や業者を探し、どのような臨御橋にするかを町民に明らかにするとともに、葉山町の新しいスポットになる臨御橋にすることによって葉山町の文化を高め、日本や世界から訪れて来た多くの人々が感動するとともに心に残る素晴らしい臨御橋にする事を陳情します。

令和7年8月25日

葉山町一色1822番地5　　豊田　晏

葉山町
7.8.25 収受
陳7-27号